

鈴

からだの奥には鈴がある

いつもは鳴らない

ときどきは、鳴る

ちりんと囁くように鳴る

いつもは聞こえない

ときどきは、聞こえる

鈴が揺れたとき

自分のからだにとても

大きな穴があいていたことを思い出す

そうでない

鈴はあんなにきれいに鳴らない

鈴がからだに眠っているなんて

普段は忘れている

だけどときどき聞こえる

泣くような細い声にふれると

からだの中の空洞は

はつきりとした輪郭をもって

怒ったおおかみの口のように

ここに姿を立ち上げる